

電子図書館を活用したプレゼン教育に関する研究

上野 亮† 飯島 泰裕†

青山学院大学 社会情報学部†

1. はじめに

近年、大学図書館において、電子図書館を導入する事例が見られる。ここで言う電子図書館とは、PC やスマートフォンを通じて、デジタルデータで作成・出版される電子書籍の検索・貸出・返却・閲覧を可能にするサービスである(参考文献 3 参照)。青山学院大学社会情報学部においても、2013 年度に電子図書館を導入、2015 年度までの 3 年間、多読教育に活用してきた(参考文献 2 参照)その後、2016 年度末には、新たな電子図書館システム「LibrariE」を導入した(参考文献 1 参照、図 1 参照)。



(参考文献 1 より引用)

図 1 電子図書館のトップページ

また、本学社会情報学部では「プロジェクト演習入門I/II」という授業における、発表資料の冊子データ、プレゼンテーションの様子を録画した映像資料等、様々なデータの蓄積がある。そこで、これらのデータを電子図書館上で公開し、プレゼン教育に活用する方法の研究を進めている。本稿では、これまでの研究成果と課題について述べる。

2. プレゼン教育に必要な資料の実装

電子図書館を活用したプレゼン教育は、PBL (Project Based Learning) 型の講義である「プロジェクト演習入門I」を対象に実施した。当該講義の 14 回目に、学生はこれまでの成果をプレゼンする。その場には、学外からも審査員が招かれる。そのため、学生には発表資料とプレゼンの両面において、初見で見ても、分かりやすい内容が求められる。

そこで今回は、この時に備えて、電子図書館を活用できるように、必要な準備を進めた。実際には、学生にはリハーサルの前週(2017/6/20)から、ファイナルプレゼンテーション(2017/7/11)までの約 3 週間、電子図書館を利用させた。

資料については、電子図書館上に発表資料作成の参考にできるように、前年度のファイナルプレゼンテーション時に、審査員に配布したプレゼン資料集を電子書籍として実装した。加えて、実際にプレゼンをする際の参考にできるように、審査員から、高評価を得たグループの発表が含まれている、前年度のファイナルプレゼンテーション時の映像資料 6 本(1 本あたり 60 分~90 分程度)を実装した。

3. 電子図書館の利用実態

今回、プレゼン教育に利用した電子図書館では、利用統計データが取得できる。そこで、利用期間中の利用統計データを分析することで、システムの利用状況を把握した。結果、電子図書館にログインし、何らかの資料を借りた学生は 47 人いた。また、貸出状況としては、資料集は 34 回、映像資料は 47 回、計 81 回の貸出となった。

この 81 回の日付別貸出状況を見ると、最も多かったのが「6/20(火)」で 28 回(34.6%)、次いで、「7/4(火)」の 23 回(28.4%)、「6/21(水)」と「7/11(火)」の 7 回(8.6%)の順となった。この内、「6/21(水)」以外は講義の実施日である(図 2 参照)。

A Study on presentation education using an E-libraries

† Ryo Ueno, Yasuhiro Iigima · Aoyama Gakuin University
School of Social Informatics

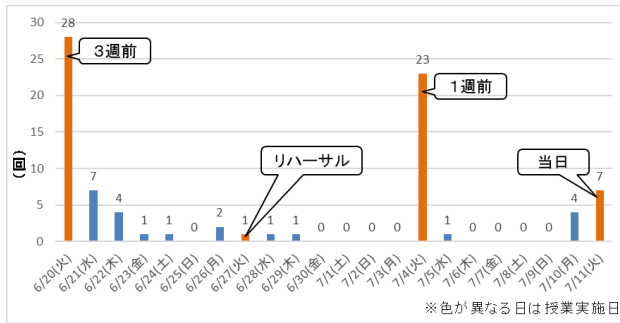


図2 日付別貸出状況

また、他の日と比べ、特に貸出回数が多い「6/20(火)」と「7/4(火)」は、講義内で電子図書館を利用するように促している。よって、現状、講義の時間以外では、ほとんど電子図書館が活用されていない。そこで、この状況を改善し、自習する時等の講義の時間以外でも、積極的に活用されるツールにする必要がある。

4. 電子図書館への評価

電子図書館を活用したプレゼン教育を実施した後、効果検証のためのアンケート調査を実施した。調査は「プロジェクト演習入門I」の全履修者 219 名を対象に、同講義の 15 回目(2017/7/18)に実施した。その結果、194 名より回答を得た(回収率 88.6%)。

電子図書館の利用状況を確認した結果、「授業中に利用した」学生が 72 人(37.1%)、「授業時間外に利用した」学生が 25 人(12.9%)となり、内 5 人は授業中、授業時間外、どちらも電子図書館を利用していた¹。実際に、電子図書館を利用した学生は 92 人となり、利用に至る学生は、全履修者の半数以下に留まった。

また、プレゼン資料集や映像資料を見た学生に対し、その評価を確認した。その結果、プレゼン資料集を見た学生 69 人中 54 人(78.3%)が「参考になった」と回答した。映像資料に関しては、見た学生 61 人中 49 人(80.3%)が「参考になった」と回答している(図3参照)。

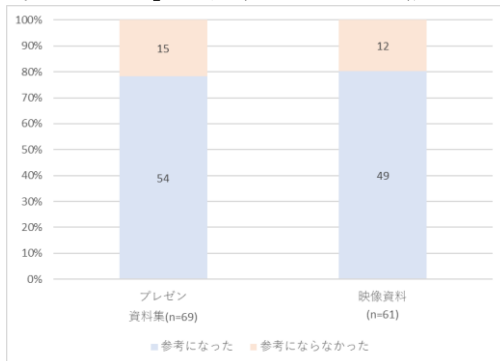


図3 プレゼン資料集・映像資料の評価

プレゼン資料集が参考になったと回答した 54 人に、その理由を確認した結果、発表資料作りの参考になったとの回答が 45 人(83.3%)で最も多かった。更に、映像資料が参考になったと回答した 49 人に、その理由を確認した結果、発表当日の進行のイメージを掴めたから、との回答が 30 人(61.2%)で最も多かった。よって、電子図書館は、発表資料作成やプレゼンのイメージ作りに、活用されていた。

5. 終わりに

本稿では、電子図書館を活用したプレゼン教育の成果と課題について考察してきた。その結果、当初の目的通り、電子図書館は、発表資料の作成やプレゼンの参考資料として、活用されていた。しかし、電子図書館の利用率が低いため、多くの学生に対し、効果を発揮するツールになっていない。そこで、積極的に活用されるツールに改善し、利用の定着化を図る必要がある。

これらの現状を踏まえ、よりプレゼン教育に適した資料の実装を進めている。その第一段階として、発表資料作成時やプレゼン実施時の注意事項をまとめたチェックリスト、プレゼンの良い例と悪い例を示した映像資料を追加した。これらの資料も、現在、講義で活用しているため、今後はその効果も検証していきたい。

謝辞

電子図書館の導入に当たり、紀伊國屋書店の皆様にご協力頂きました。なお、本研究は科学研究費基盤研究(C)「深い学習を促すデジタル教材—学習方略の選択への介入—」の成果の一部です。

参考文献

- 1) 青山学院大学社会情報学部(2017):「青山学院大学社会情報学部電子図書館」, <<https://www.d-library.jp/agu/g0101/top/>> Accessed.2017.11.24.
- 2) 上野亮, 飯島泰裕(2016):「多読課題に対する大学生の電子図書館利用状況に関する考察」, 『日本計画行政学会・社会情報学会共催 第10回若手研究交流会 予稿集』, pp.91-94.
- 3) 株式会社図書館流通センター(2017):「電子図書館サービス 人と資料をつなぐために」, <<http://www.trc.co.jp/solution/trcdl.html>>, Accessed 2017.12.25.

脚注

- 1) 自分のアカウントを使いログインせず、講義中に、友人等と一緒に利用した場合も、利用したものとして扱った。そのため、利用統計データの貸出状況とは、ずれが生じている。